



Zambia

学校名: 埼玉県立富士見高等学校

氏名: 佐藤 亜矢香

[担当教科: 公民科]

● 実践教科等: 公民科(現代社会)

● 時間数 : 20時間

● 対象生徒 : 1学年

● 対象人数 : 34人×4クラス

1 単元名

「貧困」の解決に向けて私たちに出来ることは何だろう？

2 単元の目標

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度(国立教育政策研究所が例として示したもの)

- ・ 日本やザンビアの現状をもとに世界で起きている「貧困」について、他者との対話や諸資料を活用して様々な要因から引き起こされていることを理解する。
【1批判的に考える力】【3多面的、総合的に考える力】【4コミュニケーションを行う力】【5他者と協力する態度】
- ・ 持続可能でよりよい社会を目指して、「貧困」問題について関心を持ち続け、自分なりの解決策を考えどのように行動したら良いか行動方針を見出し他者に発信することが出来る。
【2未来像を予測して計画を立てる力】【6つながりを尊重する態度】【7進んで参加する態度】

3 資質・能力育成に向けた授業づくりの視点(国立教育政策研究所・2014)

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 意味のある問いや課題で学びの文脈を造る | 2 子供の多様な考えを引き出す |
| 3 考えを深めるために対話のある活動を導入する | 4 考えるための教材を見極めて提供する |
| 5 すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する | 6 子供が学び方を振り返り自覚する機会を提供する |
| 7 互いの考えを認め合い学び合う文化を創る | |

4 単元の指導について

(1)教材観

学習指導要領「現代社会」の「(2)現代社会と人間としての在り方生き方 オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割」、「(3)共に生きる社会を目指して」を踏まえて単元の構成を行った。現代の社会についてよく知り考え行動することを目標として、1学期の授業から若者の投票率向上についてプレゼンを行うなど対話を通じて今日の課題について考えてきた。2学期の授業でも、単に「貧困」について知識を習得するのではなく、対話を通じて現地で視察したプロジェクトやそこで活躍する日本人の姿を紹介する中で、国際協力の意義や理想の支援の在り方についても考えを深めてもらいたい。また、3学期の授業では「(2) エ 現代の経済社会と経済活動の在り方」について学習する予定である。

(2)生徒観

本校では、経済的事情からアルバイトをしている生徒も多く、1クラスの中に父子家庭・母子家庭や生活保護を受給して生活している生徒も少なからず居る。そのため、SDGsの1番目の目標「貧困をなくそう」を単元のテーマとして授業を行うことにした。まずは自分の国のことをよく知って欲しいという思いから、単元の前半で日本の「貧困」について扱うことにした。事前アンケートの結果、日本にも「貧困」はあると答えた生徒は全体の88%(85人)であり、無いと回答した生徒よりも多かった。一方で、その理由を見ると、「ホームレスがいるから」と回答した生徒が全体の43%(42人)と最も多かった。そこで、まずはこの問題から扱うことにしたが、その他にも雇用問題や子供の「貧困」など様々なテーマから日本の「貧困」について考えてもらいたい。その後、ザンビアを例として途上国の「貧困」の現状を知り、ただ「かわいそう」という感想にとどまるのではなく、自分自身の問題とも関連付けて考えてもらいたい。

事前アンケートでは、海外に行ったことある生徒は全体の13%(17人)、海外に将来行ってみたい生徒は全体の48%(61人)、日本以外の国に興味のある生徒は全体の43%(54人)と半数以上の生徒は海外に興味が無いことが分かった。また、自分の行ってみたい国や興味のある国について調べてまとめる課題で、途上国を選んだ生徒は各クラス数名程度と非常に少なかった。

(3) 指導観

個人の意見を深めるために、「貧困」とはどのような状態であるか？という質問を、単元全体を通じて継続的に行う。また、「なぜ学校で勉強することが大切なのか？」など生徒が自分自身の問題と関連付けて考えられるテーマから、ザンビアの「貧困」と日本の「貧困」とをつなげて考えてもらいたい。

5 評価規準

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	・「貧困」の解決に対して意欲的に考えようとしている。	・「貧困」に対して自分なりの解決策を見出し、意見を他者に発信出来る。	・的確な情報を読み取り、「貧困」の諸要因について適切に表現出来る。	・「貧困」が様々な要因から引き起こされていることを理解し、説明出来る。
評価方法	・授業中の様子 ・グループワークの 取り組み状況	・授業中の様子 ・授業プリントの記 入内容	・授業プリントの記 入内容 ・定期考査	・授業プリントの記 入内容 ・定期考査

6 単元の構成 (※ 単元全体を通じて授業の冒頭で3人ずつ国調べの課題発表をクラスで行う)

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	世界で目指す17のゴールとは？	・SDGsの17の目標について知り、単元のテーマである「貧困」について興味・関心を持つ。	・SDGsのイラストを見てどのような目標なのかを予想し、このうち日本で達成されているものとそうでないものをペアで話し合う。
2・3	日本にも「貧困」はあるのか？①	・「ホームレス」から抜け出せない仕組みについて理解する。 ・「ホームレス」対策のための行政の取り組みについて考える。	・「ホームレス」の方へのインタビューや映像からその生活について理解する。 ・「ホームレス」のためのシェルター建設に賛成か反対かをペアで話し合う。
4	日本にも「貧困」はあるのか？②	・ネットカフェ生活から抜け出すことが難しいことを理解する。 ・「脱法ハウス」について知り、社会の抱える矛盾に目を向ける。	・ネットカフェでの生活をシミュレーションし、なぜ家を借りることが難しいのか体感する。 ・映像から「脱法ハウス」の拡大について理解し、その是非について考えをまとめる。
5	日本にも「貧困」はあるのか？③	・近年の日本の雇用形態の特徴と問題点について考える。 ・日本の「貧困」問題が個人の問題だけではないことを理解する。	・非正規労働者増加の現状と問題点をグラフや図などの諸資料から考える。 ・経済のグローバル化と非正規労働者増加の関係について映像を参考にまとめてみる。
6・7	日本にも「貧困」はあるのか？④	・ブラック企業の特徴やそこで働く際の対策について理解する。 ・女性の「貧困」が引き起こされる諸要因を理解する。	・ブラック企業について理解し、友人がそこで働いていた際のアドバイスを考える。 ・女性の「貧困」の現状についてクイズや映像から理解する。
8・9	日本にも「貧困」はあるのか？⑤	・少子高齢化と「貧困」の関係について理解する。 ・高齢者の「貧困」が引き起こされる諸要因を理解する。	・先進国の少子高齢化の現状についてグラフの読み取りから理解する。 ・日本の社会保障制度について知り、高齢者の「貧困」の現状について理解する。
10	日本にも「貧困」はあるのか？⑥	・子供の「貧困」が引き起こされる諸要因を理解する。 ・身近な地域の課題について関心を高める。	・映像から子供の「貧困」の現状について理解する。 ・身近な地域で今求められていることについて富士見市に住む住民の声から予想する。
11	日本の「貧困」解決に向けて！	・全国で実際に行われている取り組みから「貧困」解決を考える。 ・これまで学習した日本の「貧困」について整理する。	・実際の例から、「貧困」問題解決のヒントになりそうなことをペアで考えまとめる。 ・日本の「貧困」が引き起こされる要因についてグループでマインドマップにまとめる。
中間考査			
12	中間考査返却とこれまでの振り返り	・日本以外の先進国の「貧困」についてアメリカを例に理解し、日本の「貧困」とも関連付ける。	・中間考査の復習をする。 ・映像からアメリカの「貧困」を理解し、日本の「貧困」との共通点や相違点を考える。
13	ザンビアってどんな国？	・クイズを通じてザンビアという国に興味・関心を持つ。	・ザンビアの首都や言語など基本的な事項を地図帳で調べる。

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

			・クイズからザンビアの生活を理解する。
14	ザンビアはどうして「貧困」の国なのだろう？	・ザンビアの「貧困」が様々な要因から引き起こされていることを諸資料からまとめる。	・グループのメンバーに写真の内容を説明しながら、ザンビアが①地理、②教育、③保健・医療、④産業・経済などの諸要因から「貧困」であることをグループでまとめる。
15	ザンビアの「貧困」と日本の「貧困」は同じなの？	・「貧困」には様々な定義があることを知り、ザンビアの「貧困」と日本の「貧困」との共通点や相違点を考える。	・子供が健やかに成長していくために必要な物とその基準をグループで考える。 ・「絶対的貧困」、「相対的貧困」、「精神的貧困」の定義をそれぞれ理解する。
16	なぜ学校で学ぶことは大切なのだろうか？	・なぜ学校で学ぶことは大切なのか自分なりの考えを持ちこれからの学習に意欲的に取り組む。	・カードからなぜ勉強をした方が良いのかを読み取りグループのメンバーと共有する。 ・ザンビアの学校の映像を見て日本の学校との違いや感じたことをまとめる。
17	格差があるのは悪いことなの？	・ザンビアの都市と地方の格差から、「平等」「公平」「公正」について理解し、より良い社会の在り方を考える。	・ザンビアの都市と地方に関する映像からその違いを考える。 ・「世界一貧しい大統領のスピーチ」を聞き、自分自身の考える豊かさについてまとめる。
18・19	これまで日本がやってきた支援について知ろう！	・様々なプロジェクトやそこで活躍する日本人の姿を紹介する中で、国際協力の意義や理想の支援の在り方について考える。	・日本のこれまでのザンビアへの支援から支援をする時に考えるべきことをまとめる。 ・ザンビアの小学校の状況を知り、自分だったらどのような支援をするか考える。
20	持続可能でよりよい世界を目指して！	・「貧困」の解決に向けて高校生として日本人として出来ることを考える。	・ザンビアの「貧困」についてマインドマップにまとめ自分に出来ることを考える。 ・単元のまとめとして「貧困をなくそう」を啓発するためのロゴを考え他者に発信する。
期末考査			

7 授業事例の紹介

小単元名【なぜ学校で学ぶことは大切なのだろうか？】

(1) 指導案

(ア)実施日時 平成29年11月20日(月) 第5限〔16時限目／20時限〕

(イ)実施会場 1年7組教室

(ウ)本時の目標 学校で勉強することの意義という答えのない問いに対して様々な意見があることを知り、自分なりの考えを持つことで、意欲的にこれからの学習に取り組むことが出来る。

(エ)指導のポイント 個人で考える時間とグループで考える時間があるためメリハリをつけ、真剣にテーマに対して考えを深めてもらいたい。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
	本時のテーマについて知らせる。【1】	・テーマについて自分の考えを書く。【学習前】 ・ドラマ「先に生まれただけの僕」の一部を視聴する。	個人	・今日のテーマについて興味・関心を持たせるようにする。	・授業中の様子 【関心・意欲・態度】
5	・カードを読み意見を読み取らせる。【4】	・34枚のカードから気になる1枚を選び、どんなことが書かれているか読み取る。	個人	・カードが残った場合は授業者が例としてそのカードを見せる。	・授業プリントの記入内容 【資料活用の技能】
10	・カードの内容をグループで共有させる。【3】	・自分のカードに書かれている勉強することの意義をグループのメンバーに説明する。	4人組	・カードの説明の文章はグループのメンバーには見せないようにする。	・グループワークの取り組み状況 【関心・意欲・態度】
15	・情報を他のグループと共有させる。【5】	・ワールドカフェ形式で他のグループから聞き取ったことをメモする。	4人組	・パワーポイントを使って今後の動きの説明をする。	・グループワークの取り組み状況 【関心・意欲・態度】
25	・情報をグループで共有	・聞き取りに行った3人はグループのメンバーに情報を伝	4人組	・この後の流れを考えて時間をあまりかけすぎない	・グループワークの取り組み状況

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

	させる。【3】	える。		いようにする。	【関心・意欲・態度】
35	・カードにあった意見を吟味させる。【2】	・共有した情報のうち共感出来るものがあつたか自分の考えをプリントに記入する。	個人	・メリハリをつけるため机を元の状態に戻す。	・授業プリントの記入内容 【思考・判断・表現】
38	・ザンビアの学校や授業の様子を映像で見せる。【2】	・ザンビアの授業の映像を見て日本の学校との違いや感じたことをプリントに記入する。	個人	・時間がなければ映像視聴のみを行いプリントの記入は宿題とすることを伝える。	・授業中の様子 ・授業プリントの記入内容 【思考・判断・表現】
42	・ザンビアで働く方からのメッセージ映像を見せる。【2】	・日本の子供たちへのメッセージ映像を見て感じたことをプリントに記入する。	個人		・授業中の様子 ・授業プリントの記入内容 【思考・判断・表現】
48	・まとめとしてもう一度テーマについて考えさせる。【6】	・友人から言われた「学校で勉強する意味ないよね？」という問いに対して答えを考える。【学習後】	個人	・時間があれば、意見を発表してもらう。	・授業プリントの記入内容 【思考・判断・表現】

小単元名【 ザンビアの「貧困」と日本の「貧困」は同じなの？ 】

(1) 指導案

(ア)実施日時 平成29年11月20日(月) 第6限 [15時限目/20時限]

(イ)実施会場 1年6組教室

(ウ)本時の目標 「貧困」には様々な定義があることを知り、ザンビアの「貧困」と日本の「貧困」について共通点や相違点を考える。

(エ)指導のポイント 映像視聴やグループワークで課題に対する関心を高めた後に振り返りの時間を十分に設けることで、課題に対して自分なりの答えを持てるように工夫する。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
10	・映像に登場する子供たちは「貧困」かどうかを考えさせる。【2】【4】	・映像を見て、子供たちが「貧困」かどうかとその理由を考える。【学習前】 ①ザンビアの子供たち(手作りのおもちゃで遊ぶ様子・電源の入っていないヘッドホンを聞く様子)、②はまじ、③花輪くん、④まるちゃん	個人	・今日のテーマについて興味・関心を持たせるようにする。 ・振り返りの時間を十分確保するため、映像視聴にあまり時間をかけすぎないようにする。	・授業中の様子 【関心・意欲・態度】
30	・子供が健やかに生きていくために必要なものを考えさせる。【1】【3】【7】	・15枚のカードを子供が健やかに生きていくために必要なものと必要でないものに分類し、その基準も考える。 ・全グループの用紙を黒板に掲示し、他のグループと意見を共有する。	4人組み	・グループワークの時間を事前に伝える。課題が終わったグループから掲示していく。 ・メリハリをつけるため机を元の状態に戻す。	・グループワークの取り組み状況 【関心・意欲・態度】 ・授業プリントの記入内容 【思考・判断・表現】
40	・「貧困」の定義を理解させる。【5】	・「絶対的貧困」と「相対的貧困」の定義について理解する。 ・小野さんの映像から「精神的貧困」について理解する。 ・ホセ・ムヒカ氏のプロフィールと彼の言葉を紹介する。	個人		・授業プリントの記入内容 【知識・理解】
45	・ザンビアの子供が「貧困」かどうか再び考えさせる。【2】	・ザンビアの子供たちは「精神的貧困」かどうかを考えプリントに記入する。	個人	・もう一度今日の授業の冒頭で見た映像の内容を思い出すように促す。	・授業中の様子 ・授業プリントの記入内容 【思考・判断・表現】
	・まとめとしてもう1度テーマについて考え	・「相対的貧困は絶対的貧困よりはましだと思うなあ」という友人からの問いに対して答え	個人	・時間がなければプリントの記入は宿題とし、時間があれば意見を発表	・授業プリントの記入内容 【思考・判断・表現】

(15時限目) 小野さんの映像のインパクトが大きかったようで、単元の最後に実施したアンケートにも「精神的貧困」について書いた生徒が多かった。また、せっかく「精神的貧困」について生徒に強く印象付けることが出来たのであれば、授業のまとめの問いもそれに関連したものにすべきであったと感じた。

(16時限目) 1学期の授業からペアワークなどを多く取り入れてきたため、ワールドカフェ形式での授業は初めてであったがスムーズに行うことが出来た。また、研究授業後の協議会では、授業で使用したカードはキャリア教育の授業でも活用できそうだとアドバイスをいただいたので今後試してみたい。

(映像) PPAP(SDGs バージョン)、地球データマップ「ひろがる格差」「働くこととケーザイト」、NHK スペシャル目に見えない「貧困」、上勝町「いろどり」、格差社会アメリカ、ニュース(ネットカフェ難民、脱法ハウス、電通労災認定、シングルマザー)、アニメ(ちびまる子ちゃん)、ドラマ(先に生まれただけの僕)

(ザンビア関係映像) ザンビアの子供たち、小野さんのお話、ザンビアの小学校、日本の子供たちへメッセージ、ザンビアの都市と地方、ナショナルサイエンスセンター・日立建機、国際協力とは？

A group of students in a classroom are working on a project. They are seated at a long table, looking at a large sheet of paper with a diagram. One student is pointing at the paper, and another is writing. There are various items on the table, including a green folder, a red book, and some small containers.

(16時限目使用教材) 自作パワーポイント、授業プリント、勉強する意味カード34枚

34枚のカードの例

(表)



(裏)

写真の人物：梶原将太さん(ザンビア大学)

人物の説明 北海道大学の研究員で、今はザンビア大学でウイルスの研究をしています。北海道大学の獣医学部でウイルスの授業を受けて面白いと思ったことがきっかけで今の仕事を始めました。

「もともと海外旅行が好きで、将来は海外で活動してみたいという思いがありました。ザンビアの研究の手伝いをした時に「ありがとう」「君が居てくれて良かった」と言ってもらえた時、(ザンビアに)来て良かったと思います。海外で生活するのは大変なことも多いんですけど、その分エキサイティングで楽しいです。みなさんも、私の場合は海外でしたが、**自分が好きなことを見つけてそれに思う存分熱中してみてください。**いかがでしょうか？
それが、いつか自分の仕事になる時が来るかもしれません。」

(4) 参考資料等

『NHK 地球データマップ—世界の“今”から“未来”を考える』、NHK「地球データマップ」制作班、NHK出版、(2008)

『子供の貧困-日本の不公平を考える』阿部彩、岩波書店、(2017)

『先生、貧困ってなんですか？日本の貧困問題レクチャーブック』上野良治、合同出版、(2017)

『子供の貧困ハンドブック』松野伊智朗他、かもがわ出版、(2017)

8 単元を通じた生徒の反応/変化

生徒の感想(抜粋)

1. 「ザンビア」はどんな国だと思いますか？

授業前(13時限目の「ザンビアってどんな国？」の実施)	授業後
今回の授業でザンビアという国を初めて知った。暑い、動物がたくさんいる、自然が豊か、働いている人が多い、「貧困」である、日本から遠い国である、平均寿命が日本よりも短い、虫を食べる、人口が多い	貧しい国でも自分の力で何かをしようとする気持ちがあつてすごい、地方と都市の暮らしの差が大きい、誰がどう見ても「貧困」だが笑顔がいっぱいの国、途上国で経済的格差が激しいが「貧困」であっても温かみがある

2. 「貧困」とはどのような状態だと思いますか？

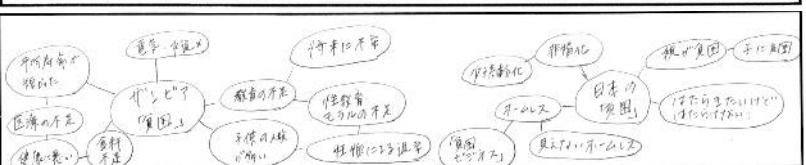
授業前	授業後
お金が無くて食べるものも無く生きていくのが難しい状態、働けなくてお金が無い状態、貧しい人たちが困っている状態、路上で暮らしている状態、食べるものが無く今にも死にそうな状態、普通の生活を送れない状態、子どもが働かされて学校に行けない状態	安定した生活が出来ず幸せを感じられない状態、お金や精神的な幸せが不足している状態、物やお金がいらないだけでなく感謝の心も足りない状態、自立出来ていなくてそれに向けて頑張っている状態、人として最低限の生活を営めていない状態、自立できずに人に頼ってばかりの状態

3. 「貧困」をなくすために私たちに出来ることは何だと思いますか？

授業前	授業後
募金、要らなくなった物を寄付、ボランティア、高い買い物をして日本の景気を良くする、見守ることしかできない、「貧困」になっている人の気持ちを考える、わからない	「貧困」についてよく知ること、みんなでどうすべきを考えて行動にあらわす、国民一人一人のお金を分けられるようなシステム作り、SNSでの呼びかけ、身近にいる人を大切にする

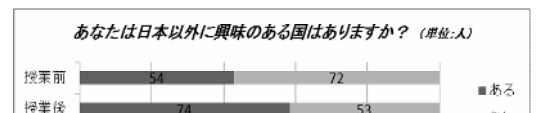
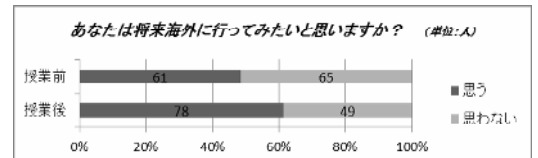
4. 2学期の授業を受けてみて考えたことや感想を文章やイラストで自由に書いてください。

自分・身近に貧困を感じることは無いけど日本でも貧困があることも知った。
実際にホームレスの人が自分の住んでいるお出掛け所にも見たことあったので
今回学んでとても生活の大変さを知った。
精神的貧困も学んでとても物もらって感謝状で送る人を知って驚きました。



また、授業実施前は、海外に興味が無い生徒が半数以上であったが、国を調べて発表する課題やザンビアの映像等を通じて、若干ではあるが海外に興味を持つ生徒が増えた。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策



派遣前は、「日本人として途上国の「貧困」に対して何ができるか考える」という単元目標を設定していた。しかし、実際に現地に行きそこで働く日本人の方々とお話しして、先進国も途上国も関係なくお互いにとって win-win な関係づくりを目指した国際協力が行われていることを知り、派遣後は単元目標から見直すこととなった。また現地で多くの方々にご協力いただいたインタビュー映像から生の声を

通じて生徒たちに考えさせることが出来たことが大変良かったと考えている。帰国後にインタビュー映像を見直して、生徒たちにとって身近な課題である「学校で勉強することの意義」を授業テーマに設定した。インタビューの質問項目は現地で考えたためこのテーマに関する直接的な質問項目を設定することは出来なかったが、限定した質問項目でなかったからこそ、そこで働く方々の様々な背景をお話していただくことが出来たのではないかと考えている。20時間の授業実践を行う中で、アンケートを実施しながら生徒の興味・関心に基づいて授業計画を修正していった。インタビュー映像は、テーマを変えることで別の切り口からも授業をすることが可能であるので、今後も同じ映像を用いて新たなテーマでも授業実践に取り組みたい。

10 教師海外研修に参加して

日本以外の国の教育現場に足を踏み入れるのは初めての経験であった。ザンビアのどの小学校の先生方も共通してお話されていた「子供たちが私たちの未来を創る」という言葉に心打たれた。今回、社会科の教員として実際に途上国に行き自分で聞き出したことを活かした授業実践を行いたいという思いからこの研修に参加した。視察を通じ、現地で識字率や未就学率など数値では表しきれない部分を多くの当たりにしたことは一生の財産となった。少ない日数ながらも現地に行き肌で感じたことを、次年度以降も現代社会の授業だけでなく他の科目でも自分の言葉で生徒たちに伝え続けていきたい。また、今回の研修でのネットワークを活かして今後も国際社会に生きる子供たちに必要な力を育んでいきたい。

単元の最後に生徒が考えたSDGsの1番目の目標「貧困をなくそう」の新しいロゴ

